

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 名古屋東急ホテル
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
 会長 舎人 経 昭
 幹事 池 森 由 幸
 広報・会報委員長 尾 関 武 弘

No. 37

ロータリーの未来は あなたの手の中に

THE FUTURE OF ROTARY IS IN YOUR HANDS

2009~2010年度 RI会長 ジョン・ケニー

今日の例会

第1316回 平成22年5月18日(火)
名古屋名城ロータリーアクトクラブ合同例会

先週の例会

第1315回 平成22年5月11日(火) 雨
会員 三好 親君 “私の生い立ち”

- ◆奉仕の理想
- ◆新入会員紹介 (宣誓書に署名・認証書手渡し)



氏名 高橋智尚
 生年月日 昭和39年10月8日
 事業所 日本生命保険(相)名古屋東支社
 千種区今池4-1-29
 ニッセイ今池ビル7F Tel. 741-0822
 地位 支社長
 自宅 瑞穂区夕路町4-31-1
 ワイモード201号
 職業分類 生命保険
 委員会 親睦
 推薦者 舎人経昭

※生まれは大阪で、中・高・大学と社会人として7年間
 現役で野球をして精神力は鍛えられてきました。
 30才で初めて現場に出され、千葉ではJCに少し入会
 しておりましたが、ロータリーは何も知りません。
 皆様のご指導を宜しくお願い致します。

◆ビジター紹介 1名
 ◆出席報告
 会員 46(38)名 出席 31名
 出席率 81.58%
 前々回 4/20(修正出席率) 100%

池森幹事報告

- 1) 本日例会終了後、理事役員会を開催致しますので、理事役員の方は3階梅の間にお集まり下さい。
- 2) 次回例会は名古屋名城RAC合同例会で、時間を変更し午後6時30分より開催致しますので昼間の例会はございません。
- 3) ロータリーの友が来ておりますのでお帰りにお持ち下さい。

舎人会長挨拶

お彼岸には、どのような由来があるのですか？

春分の日や秋分の日を「お中日」と呼び、その節後の三日を合わせた七日間を、それぞれ春のお彼岸、秋のお彼岸といいます。この期間中に、「彼岸会」という法要や墓参りなどを行う風習が、わが国に古くからあります。インドや中国に彼岸会があったとは、あまり聞きません。日本だけの、いかにも日本的な仏教行事のようです。

では、どうして、日本でお彼岸が行われるようになったのでしょうか？

ちなみに、「国民の祝日に関する法律」を見ますと、春分の日…自然をたたえ、生物をいつくしむ。

秋分の日…祖先をうやまい、亡くなった人を偲ぶ。

そのような日とされています。春には、萌え出る生命。秋には、枯れて行く生命。生命には二つの側面がありますが、そのような生命に想いを馳せるのが、春分・秋分の日なのです。

春分・秋分の日には、ご存じのように、太陽は真西に沈みます。そして、その西の方角の、はるか遠いところには、阿弥陀仏の極楽浄土があります。それで、真西に沈む赤い夕陽を眺めながら、日本人は、西方極楽浄土におられるご先祖のことを思い出し、手を合わせて拝んできたのです。

ですから、「彼岸」というのは、

日オガミ→日ガミ→日ガン→彼岸

となってきた言葉だと説明する学者もいますが、要するにご先祖を偲ぶのがお彼岸の由来であります。

わたしたち人間にとって、死は恐ろしいものです。死んだらどうなるか……？誰もが不安に思っています。しかし、本当はそんなに不安がる必要はないのです。わたしたちは死んだあと、誰もがほとけさまの世界。すなわちお浄土に往ける。お浄土に従って、先に亡くなった両親、祖父母と再会できるのです。それが仏教の教えです。

お彼岸は、そんなことを考えさせてくれる日でありませぬ。

◆卓 話

“私の生い立ち”

会員 三好 親君



私は1948年9月に静岡県蒲原という田舎で生まれました。

隣町の由比町は桜エビが有名であり立派な漁師町です。蒲原は今でこそ静岡市に合併編入され静岡市葵区となりましたが、もともと何も産業の無い、猫の額ほどの東西に細長い狭い土地でした。農業といえ山

の南側斜面にみかん畑、漁業は港が無いので漁師は居ません。そして、産業といえ日本軽金属の工場があるだけです。強いて云うなら東海道五十三次の16番目“夜の雪”というタイトルで描かれている事と、歌手の久保田利信の出身地というくらい町の町です。そんな風土故に男性の殆どの人達が東京へ出て行きます。中でも特に塗装の仕事に就く人が多かったのは難しいノウハウも要らず設備も要らず、気持ちと体が有れば、極端な話誰でも簡単に起業家として一旗上げることができ、郷里に錦を飾ることができたからではないでしょうか。

前述しましたように殆どの男性が東京へ出る中、私の祖父はどういう訳か名古屋へ出てきました。

それが、1921年(大正10年)のことであります。創業当初は主として、国鉄と森林鉄道の橋、駅等のペンキ塗り架け替えが殆どであった様です。

そうして昭和に入り、日本が満州国を立ち上げ満州鉄道敷設が始まると同時に私どもの会社も一緒に“満州支店”を開設しました。そんな関係から戦前、祖父は度々満州に行っていた様です。

やがて太平洋戦争が始まり祖父も帰国しました。

間もなく昭和17~18年頃、父母が結婚しまして戦後の23年に私目が生まれた訳であります。元々4人兄弟でありましたが、一番上と一番下が亡くなり、真ん中の二人、私と姉が生き残りです。父親は熊本の生まれで母の所に養子に入り、結婚してからも何年かエンジニアの仕事をしていましたが、義父(祖父)に“ぼちぼち”塗装の仕事を受け継ぐ”と言われシブシブ継いだと思います。

ちょうど日本もそんな頃戦後の荒廃から少し立ち直り経済も発展しかかった時期であり昭和26年に個人事業から法人設立をすると同時に従来国鉄一筋であった客先も電力・ガス・石油・重工等の大手企業との取引が始まり、出先も静岡、東京、大阪、四日市と客先の拠点がある場所に出したのもこの頃だと思えます。

仕事の内容も戦前の様な架設は無くし、塗装だけに限定した様です。理由は高度成長に入り、橋、発電所、プラント等がどんどん建設され、塗ること以外の仕事をする余力が無かったと思えます。当社にとりまして成長期に入りシブシブ引継いだ父も塗装の仕事にやっとなつてきた頃であり、仕事が楽しくなった頃だと思えます。

創業者は三好鉄次郎と云いますが、非常に恐い、厳しい存在で、引継いだ頃父はいつも大変厳しい指導?を受けていたことを思い出します。そんな状況であるが故、父はゴルフを始め私が小学校入学頃は会社が休みになると1日ゴルフ場へ行きストレスを発散していたと思えます。お陰で今は無くなってしまった志摩CCのクラ

ブチャンピオンになったこともあり、私もよく一緒に連れて行ってもらい、キャディーとたくさん遊ばせてもらったことを覚えています。

そうして、鉄道以外のお客様からも安定して工事を受注出来る様になり、勉強大嫌いな私もすくすく成長し、大学を何とか卒業することができました。

そして父親のコネで関西ペイントという塗料メーカーに2年間の約束で研修生として入社し、主に工場の製造部門、現場での実習等を行いました。

やがて2年が経過した時、当時の関西ペイントの社長から「アンタ、アホやから2年では何にも身についたらんやろ?！」さらには「これから営業に出て勉強したらどうや!」と云われ今度は入社試験も受けて正社員として営業に配属されることになりました。

素晴らしい上司、先輩、仲間に恵まれ楽しく充実したサラリーマン生活を送ることができ、家業を継ぐ気持ちがだんだん無くなってきた頃、又社長から「アンタ、もう帰ったりなはれ!親父さんの所へ」と言われたのが営業に出されてからちょうど5年経った時でした。

いよいよ帰る日が近づきお世話になった社内の人、お客様、寮のおばちゃん、皆にお礼の挨拶をし、最後に山田社長に挨拶した時は涙が止まりませんでした。

仕事のこと社会のこと本当にいろいろ教えていただき私の人生にとって何にも増して大きな7年間だったと思います。

そして後ろ髪を引かれる思いで大阪から名古屋に帰り父親の会社に入りましたが、会社の規模はもちろんであります、仕事の中味が今までと余りにも異なり、とても自分には出来ないと思いました。

お陰で2年目位で神経性胃炎やら自律神経失調症になってしまい1年半程暗い無気力な日々が続きました。しかし仕事以外の先輩、仲間の人たちに元気付けられ何とか乗り越えることが出来ました。

そうこうしている間に10年、15年がアッと云う間に過ぎ、45歳になった時社長を交代すると父親に云われ何も分からぬままに月日が経ち50歳を越えた時、自律神経失調症2度目のピンチに陥りました。この時ばかりは、私の体調だけでなく、社内の経理担当役員による粉飾と横領が発覚し、私ども小さな会社にとりましては大きな穴が空き会社の存続さえ危ぶまれ、私自身もウツ状態寸前でありました。この少し前に母親も亡くなり、私にとりましては2度目のピンチというよりは私も会社も全て最後だと思込んでいました。

毎日が苦悩の日々、食事は食べられない、死んだほうが楽だと思える状態が続きましたが、でも!でも!やはりこの時も皆さんに助けられ、支えられ、今日こうして何とか生きています。

社長に就任して概ね20年弱やっとなつて会社という生き物を少しですが理解できた気がします。

そして今は、自分の会社の仕事に誇りを持ち、素晴らしいお客様にも恵まれ、何十年の間変わらず仕事をさせて頂けることに感謝し、今は、本当に心から仕事を楽しんでます。

残りの人生、何年か分かりませんが楽しみながら精一杯仕事をしたいと思えます。

◆ニコボックスは次回掲載させていただきます。